

共利群生の もりをめざして



平成26年11月11日 秋晴れの中、献木植樹祭をおこないました。場所は国道480号沿いの天狗嶽遙拝所です。

高野山が開創されてより千二百年の好機に、弘法大師がこよなく愛された究極の聖地にお越しになつて、大師の感じた大自然に思いを馳せていただきたいと思います。そうすれば、日頃の喧噪に疲れて見失つてしまつて、大事な何かを思い出すかもしません。

の篤い信仰の結晶といえます。

「平原の幽地」は千二百年もの長い間、真言密教の信仰を伝えてきました。特に山上の森林は信仰環境のシンボルとして古くから厳しく管理され、大事に育てられてきました。現在、奥之院参道に鬱蒼と茂る杉の巨木林は、高野山という究極の聖地の靈氣と靈水を含み、大日如来の光を浴びて少しづつ確実な成長を続けてきました。また、その靈木に大日如来のいのちを感じながら、何代にもわたつて丁寧なお世話を続けてきた数多の先徳や大師信者の篤い信仰の結晶といえます。

高野山が開創されてより千二百年の好機に、弘法大師がこよなく愛された究極の聖地にお越しになつて、大師の感じた大自然に思いを馳せていただきたいと思います。そうすれば、日頃の喧噪に疲れて見失つてしまつて、大事な何かを思い出すかもしません。

なかでも重要なキーワードは「平原の幽地」です。この言葉には高野山だけが持つ、たぐいまれなる神秘性が充満しています。険しい山奥にありながら、広大な平地がある。穏やかな川の流れがあり、大自然と動物が不思議な世界で共生している。しかも、鳥の声にも風のささやきにも大日如来の力が宿り、聴く者に何かを語りかけてくれる。この地こそ真言密教の道場に相応した聖地であるという気持ちが「平原の幽地」として表されているのです。

本年は高野山開創千二百年の記念すべき吉祥を迎えることとなりました。

高野山開創千二百年記念 大法会と山林

総本山金剛峯寺 山林部長 山口 文章

本年は高野山開創千二百年の記念すべき吉祥を迎えることとなりました。



高野山開創1200年記念大法会
法会期間 平成27年4月2日～5月21日



©こうやくんPJ

金剛杖

お遍路に持つていく道具で重要なものの一つに金剛杖（こんごうづえ）があります。

ほとんどのものが長さ130センチほどの、木でできた杖です。この金剛杖は、山歩きや日頃の歩く手助けとなる杖という意味ではなく、お遍路をするうえで重要な意味を持ちます。その重要な意味とは、この金剛杖は特に弘法大師の化身とされており、この杖を持つことによって弘法大師とともにお遍路道を旅するということなのです。

ですから、みなさんトレッキングステッキや日頃使われているウォークイングステッキではなく、金剛杖を持つのです。

同行二人とはこのようなことから弘法大師と二人でいつしょにお遍路ということからきた言葉です。

奥之院にお参りをした際に杖を納めて行かれる方が多い様ですが、最後はお家に持ち帰って保管し、来世もお大師様にお導き頂くのが本来の姿です。

山林部では杉の間伐材を利用した高野靈木御杖立を作成しております。

この御杖立を使用し、ご自身とともに巡拝されたお大師さまの化身であるお杖をお側に置いていただければ幸いです。



一本立 杉



二本立 杉

伝統を伝える高野の手仕事 高野位牌

高野山周辺には多くの山村が点在し、その各村々に一つの頃から高野山に関わる多種多様な産業が興り“共利群生”が永く続いてまいりました。

その山村の一つ摩尼山の中腹に、位牌を作り高野山に納める「杖ヶ敷」という小さな村があります。天保十年（1839年）頃までに編纂された紀伊続風土記には、「当村は田地少くして戸三十余あるは高野山の位牌を製する故なり、日牌月牌に用ふる所の粗品より彫物などしたる精巧の物も作り出し生業とす：（後略）」とあり、近年まで高野靈木を利用し多くの位牌が製造されてきました。

この村で製造されていた位牌は「寺位牌」「町位牌」「別注位牌」と大きく3つに分けられ、「寺位牌」とは、在家のお仏壇で祀りするような位牌ではなく寺院に直接納められる余分な加飾を抑えた質素な位牌の総称で、各寺院それぞれ決まった形があり主に本堂や位牌堂に安置されます。

「町位牌」とは、高野山に納骨の後、自宅に持ち帰り各家々のお仏壇でお祀りする位牌の総称で、主に檜を使用し木地彫刻・下地・漆塗り・加飾（金箔・蒔絵・彩色・金具等）そして戒名の彫刻

など、それぞれ熟練した職人の手を経て仕上げられ、「本位牌」「塗位牌」とも呼ばれます。

「別注位牌」とは、文字通り特別に製作される位牌の総称で三尺（約90センチ）を超える大きな位牌や厨子、また僧侶が遷化された時に作られる白木のまま祀る雲型位牌・宝塔型位牌など職人には高度な技術が求められ口伝にて師から弟子に技術が継承されます。

このように多種にわたる位牌の製造技術が高野山周辺の小さな村で発達したのは、まさに高野山の豊かな森林資源の賜物であり、良質な材木に恵まれてこそ興った産業といえるでしょう。



別注位牌

参与会

国道480号天狗嶽遙拝所が和歌山県・高野町・参与会の合同で整備されました。



信仰の森

高野山の森厳な巨木群が成立した要因に「信仰心」があります。

数百年という長い期間、篤信者の信仰心が積み重なり「信仰の森」となって祖山を守り続けています。

この「信仰の森」が歴史的建造物保存に貢献できるのは高野山の誇りです。

平成26年度は158本のヒノキから約1,600kgの檜皮が採取されました。



高野山銘木の跡をたずねる

明遍杉

むかし明遍上人が高野山に登山され奥之院の祖師廟に参ろうとして御廟橋のたもとにさしかかるとそこには地上にも虚空にも曼荼羅諸尊のお姿がありありとみえ、足の踏み入れる余地も見いだせないほどであった。

あまりの有り難さに、橋畔の右側の杉の木に身をよせて毎日毎日礼拝念誦を重ねるにしたがつて大杉が東側に傾斜したと言われております。



明遍杉があったとされる場所に立つ杉の枯枝の撤去



ちょっと
ええ話

集記「禁植有利竹木」

高野山上には竹藪がありません。

竹は繁殖力が強く、一度植えると群生することが知られています。また、竹は成長が早いことと細工がしやすいことなどから、加工品の優良材として古くから利用されてきました。

『古事記』や『万葉集』にも竹に関する記述が多くみられ、古い歴史を持つ地域には必ずと言つていいほど大きな竹藪が残っています。しかし、開創以来千二百年を迎える高野山ですが、加工できるような竹は全くみられません。これには理由があります。

明治時代のはじめまで、高野山上では厳格に定められた規則がありました。「禁女人」(女人を禁ず)を筆頭とする十数項目にわたる規則は「山上禁忌」と呼ばれ、天皇・皇族でさえこの掟を破ることは許されませんでした。その中に「禁植有利竹木」(利の有る竹木を植えることを禁ず)があります。これは、果樹や漆

など、加工しやすく人々のためになる竹木であつても勝手に植えることを禁じた森林政策の一種です。

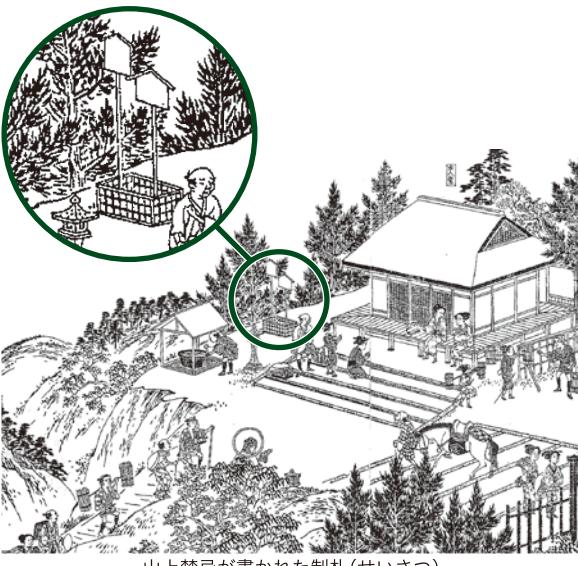
高野山の森林の存在目的は「森嚴護持」であります。言い替えると森林により高野山上の信仰環境を護り続けるということです。便利だからといつてさまざまな木を植えると里山と呼ばれる低木林になります。これでは聖地の森嚴さを表現することはできません。

高野山の森林の代名詞である奥之院参道の大杉林は、言葉では言い表せない厳かな靈気を参拝者に感じさせてくれます。これは開創以来、連綿と伝えられてきた森林政策が、多くの先徳により結実した証なのです。

また、「山上禁忌」には「禁三股長鉤」((三つ叉の熊手を禁ず)や「禁竹箒」(竹箒を禁ず)など、一見では理解できないものもあり、女人禁制と同様、厳格に守られてきました。竹は神が宿る神聖な植物であるため使用を禁じたという説や、弘法大師が毒蛇を竹箒で祓つたので

二度と現れないように使用を禁じたという説などが伝えられていますが、その真相は明らかになつていません。「山上禁忌」に秘められたミステリアスな謎も、高野山に連綿と伝えられてきた真言密教の魅力のひとつといえるでしょう。

また祖山の森林管理について「意見」を望などございましたらお聞かせください。



会報バックナンバーはこちら <http://koya-forest.jp/blog/>

山林部ブログ

検索

平成28年版
予約受付中



木製干支カレンダー・短冊付 価格 3500円

**献木一口
2000円**
なお、一回に五口以上の献木を
いただいた方には一本進呈致します。

高野靈木を使用した
干支カレンダーを作成しております。



平成27年版靈木カレンダーは好評につき予定本数に達しました。
平成28年版のお申し込みは同封のハガキにてお早めにお申込みください。

お問い合わせ

〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山132 金剛峯寺 山林部
TEL.0736-56-2016(直) FAX.0736-56-4640

E-mail sanrinka@koyasan.or.jp

※次号から会報の送付を停止する場合は、お手数ですがご一報ください。

『献木』お振込先

振替用紙をご送付致しますので、山林部までご連絡下さい。

郵便振替口座: 大阪 00930-6-61758

ゆうちょ銀行: ○九九支店 当0061758

加入者名: 宗教法人 金剛峯寺山林部